

## WWWにおける情報プレゼンテーションに関する研究 —求人データベースの画面設計—

筑波大学 原田泰

宮城工業高等専門学校 速藤律子・塚越佳葉

現在各教育機関、公共施設等ではメディアとしてのサイバースペースを介したデジタルデータが様々な形態で視覚化されている。個人情報の場合としてもサイバースペースは活用されていることは周知である。本研究はこうした状況の中、目的に合った表現を使い手の側に立ち研究を行うものである。ユーザーにとって使い易い情報の分析とそのマニュアル化及び体系化が性急に求められていると考えられる。

現在コンピューターネットワーク上の仮想空間の中で氾濫している情報を素材と考え、それをどんな手段でどのような形態で視覚化するかについての作成と、実験の意味を含めての構造設計を、求人データベースを素材にサイバースペース上に試行してみた。社会教育の場や教育現場において今後さらに増大すると予測されるサイバースペース上の情報の整理と可視化をダイアグラムやイラストレーションなどの手法を用いながら「情報の視覚化」の一例とし「WWWにおける情報のプレゼンテーション」を行った。本報告書はその基本設計概念及び制作過程と結果の報告となる。

## A research about the presentation of information on the WWW — design of the screen of a database of recruitment —

Harada Yasushi (Tsukuba University),

Endo Ritsuko, Tsukagoshi Kayo (Miyagi College of Technology)

In contemporary education institutions and public organizations, digital data, which uses cyberspace as a media, is visualized in many forms. It is now common to use Cyberspace as a space of individual information. Regarding such a situation, this research concerns the expression of a goal as seen from the user's side. Easy analysis of information, methodology and systematization are eagerly needed by the user.

Considering information spreading into the virtual space of the computer network as a material, we developed a project of structuring and production by experimenting visualization of recruitment database on the cyberspace, with specific means and forms.

In the context of social education (cultural organizations) and education organizations (schools and universities), we made a "presentation of information on the WWW" as an example of the "visualization of information", using the method of diagrams and illustration for making visible and organizing the information, which becomes more and more numerous on the cyberspace. This paper presents the main ideas of the project, the process of its production and its results.

## WWWにおける情報プレゼンテーションに関する研究 —求人データベースの画面設計—

筑波大学 原田泰

宮城工業高等専門学校 遠藤律子・塚越佳葉

現在各教育機関、公共施設等ではメディアとしてサイバースペースを介したデジタルデータが様々な形態で視覚化されている。個人情報の場合としてもサイバースペースは活用されていることは周知である。本研究はこうした状況の中、目的にあった表現を使い手の側立ちに研究を行うものである。従来のパッケージメディア（書籍や新聞、ビデオテープ等の閉じた媒体）に対しオープンメディア（仮称）に相当するサイバースペースにおける情報に基準を作り、ユーザーにとって使い易い情報の分析とそのマニュアル化及び体系化が性急に求められていると考えられる。このような状況の中で情報の視覚化の基準点と良質な情報設計が切望されると考えられる。

現在コンピューターネットワーク上の仮想空間の中で氾濫している情報を素材と考え、それをどんな手段でどのような形態で視覚化するかについての作成と実験の意味を含めての構造設計を、求人データベースを素材にサイバースペース上に試行してみた。

情報デザインの教育課程の渦中においても目的に沿った表現技術の獲得は必須と考えられるがその前段階である情報デザインの定義の位置づけをも含めて、実社会や教育の現場、あるいは公共施設等に流失している「情報の視覚化」を調査、分析、した上でホームページを立ち上げた。社会教育の場や教育現場において今後さらに増大すると予測されるサイバースペース上の情報の整理と可視化をダイアグラムやイラストレーションなどの手法を用いながら「情報の視覚化」の一例とし「WWWにおける情報のプレゼンテーション」を行った。

今回のホームページを立ち上げた企業は求人情報データベースを取り扱う企業としては業界一の情報量を誇る企業であり本研究においても重要なエンドユーザーの声の回収が容易であることや、知名度から多くの人々にアクセスされる可能性、ホームページ自体が「求人情報」という明快な目的のもとに作られているため回収データが分析し易い、などの諸条件により企業との提携という形をとってホームページの基本設計を行った。

求人情報データベースの画面設計を行う上での基本概念を以下にまとめる。

### ■ デザイン上の配慮点

何よりも明確なルールのない環境でのコミュニケーションである。

ユーザーにとっては不安な要素が多い。従来の本や映像のような安心感をあたる構造をWWWのデザインにも提示したい。

### ■ 1. 一覧性

ホームページ(メインメニュー)において、このデータベースの全体像(項目、構造)を把握させることが重要。「この画面は何なのか?」

また個別の情報についてもスクロールや画面移動(リンク)を極力しないで済むレイアウトを心がけた。

## ◎画面サイズ

現状のWWWでは画面をデザインする上でモニタサイズを無視できない。13インチと21インチのモニタでは一度に表示できる情報量の差は明らかである。13インチで一度に表示できる大きさ(横450～550×縦300～350)を基本単位と考え、この単位を縦につないでいくことで1画面ごとを構成した。

例) ホームページ:

タイトル及びサイトに関する補助的情報で1ユニット、

4種類の検索エンジン・適性診断テスト・各種記事情報で1ユニット

## 2. 一貫性

エディトリアルデザインでは常識的なことであるがサイバースペース上においては自分自身がどの位置にいるか、いま何にアクセスしているか等の情報が特に必須と考えた。ただし、本のように綴じておらず、バラバラの紙芝居であることを考慮しなければならない。

そのため画面が切り替わっても連続した情報の一部と感じられるような統一感のとれた表現が必要と考えた。

◎1単位の構造(例:企業検索 multi index)の中では同じ素材を繰り返し使う。(イラスト、アイコン)

◎1単位の構造の中では背景色を統一する。色彩によって構造の中に差違をつくる。

◎ヘッダーのデザインを共通にする。

## 3. ナビゲーション

◎自分が全体の中のどこを見ているか(位置の確認)

◎階層(ディレクトリー)の表現:

▼=下のディレクトリーへ、▲=上のディレクトリーへ

同一ディレクトリー内の移動=タグ(ファイルのツメのような表現)

◎言葉の統一

「次の画面」「～に戻る」「go to～」

## 4. リピート利用への考慮

また見たくなるか。何よりも価値ある情報かどうか。

書籍の表紙や扉にあたる部分はWWWではかえって邪魔。手間を掛けずに結論にたどり着く構成が2回目以降は特に重要。毎回、くだらないオープニング画面を何度もみせられてはたまらない。(電話代がもったいない)

## 5. 表現

・結論を先に

・言葉使い→専門用語をさける(例:企業検索→どんな会社があるの?)

以上のような点に留意しながらホームページを作成した。これよりフィードバックされたユーザー側からの回収回答の分析を行う。

ホームページ立ち上げ時期 1996 2月

◎総ヒット数：832 万件

◎対象：全国の就職希望の大学生

◎調査期間：1996 2月～7月

◎インデックス企画 参加社数：4240 社

使用ブラウザの90%はネットスケープである。制作当初は公的機関、つまり環境設備が整備されている場所での検索を念頭に置いて立ち上げたが、実際は自宅にてアクセスするパーセンテージも増加してきた。IDの所有率が1996年1月の時点では7%程度だったのがわずか4ヶ月後の5月には倍の13%にのびている。ユーザーの分布は専攻別にみると理系と文系がおよそ半数の割合である。この状況からみてもインターネットによる企業情報検索が特定のユーザーに限られていないことが伺える。構造と画面設計に関するユーザーの意見を長所と短所に大別してみた。

#### 長所

- ・大量の情報量の掲載。
- ・すばやく確実な検索機能。
- ・目的別検索が容易にできる。
- ・単なる企業名の羅列ではなく必要な情報からの検索を可能にした。
- ・内容から考慮すると十分なスピード。
- ・適正検査ができる。(オリジナリティーのある企業理念のビジュアル化)
- ・画面デザインが美しく見やすい。文章もわかりやすい。
- ・このメディアならではの特性を生かしたデザイン。
- ・カラフルで見やすい。
- ・構成がわかり易い。
- ・本ではないため邪魔にならない。
- ・効率のよい情報入手手段。

#### 短所

- ・画像が遅い。
- ・直接企業にメールを出したい。
- ・留学生のための情報がほしい。
- ・ブラウザによる文字化け。

## ■ 画面設計と構造デザインに関する評価詳細

### デザイン

よい 90.4%   よくない 7.9%   無回答 1.7%

### スピード

早い 6.6%   ちょうどよい 45.9%   遅い 46.4%   無回答 1.1%

### 文字量

多すぎる 5.3%   適切 86.8%   少なすぎる 7.2%   無回答 0.8%

### 検索性

よい 72.9%   よくない 26.5%   無回答 0.7%

### リンクが充実

充実 66.7%   不十分 31.3%   無回答 0.7%

### 検索機能評価

よい 72.3%   よくない 26.7%   無回答 0.9%

画面設計と構造デザインに関する調査を主にまとめた。社会におけるサイバースペース上の情報を見直し情報の分析とそのマニュアル化及び体系化をおこないながら、同時に情報デザイン教育での基礎の一部となる情報設計を行うことを目的としてきた。本研究はコンピューターネットワーク上の仮想空間における情報の設計と視覚化を目的としている。感性の数値化、体系化を行いながら情報の可視化、構造設計を模索した。こうしたサイバースペース上での画面設計（構造設計も含む）のマニュアルの確立は今後の社会の場、教育の場で大きな意義を持ち、重要かつ必要と考える。本調査は実用的なデータベースの活用を一例として今後さらに継続し、増大すると予想されるサイバースペースにおける情報の可視化のデザインをダイアグラム、イラストレーションを利用した視覚表現として調査、研究を進める所存である。